

## 船中八策

客員相談役 藤井 基之



幕末に日本に来たイギリス人で、アーネスト・サトウという若い外交官がいました。彼の在日記録に次のような話が出てきます。

当時、条約では一〇〇ドルが三一分銀とされていましたが、一分銀に含まれる銀の量が額面より少なかったため、実際の為替相場では二一分銀で取引されていました。当時の外交官たちは、この条約上の交換比率と実際の相場との差額を利用して大儲けした、というのです。例えば一〇〇ドルの月給をもらっていたとすると、貨幣製造手数料として一三分銀を差し引かれた残りの二九八分銀を日本貨幣で受け取ります。ところが、それをもう一度、ドルに

換える。すると町の両替屋では二一分銀で一〇〇ドルに換えてもらえるので、二九八分銀だと一三九ドル二五セントに交換できる。つまり、もともとの月給一〇〇ドルが、なんと一三九ドル二五セントになり、四割近くも増えることになるわけです。外交官たちは、こうして稼いだ為替の利ざやで高価なシャンパンを買ったり、馬を買うなどの贅沢ができたのだと、サトウは記しています。

実は、当時のアメリカと結んだ日米修好通商条約の議定書で「外国の貨幣は、金や銀を同量含む日本貨幣をもって通用することとする」とされていました。そして「横浜港などの開港の後、約一ケ年の間は、各港の役所で日本の貨幣をア

メリカ人に希望どおり引替渡すこと」とされていました。

そこで、実際の相場では一〇〇ドルは二一分銀で取引されましたが、条約によって三一分銀で交換することができるようになる。このレートで手に入れた三一分銀を、今度は町の両替商ですらに小判に換える。この小判には額面通りの金が入っていましたから、国外に持って行って金の地金に換えて大儲けする。そういう商人まで出てきて、幕末には大量の小判が外国に流出してしまっただけです。

さて、いまNHKの「龍馬伝」が人気ですが、龍馬の偉さは薩摩藩や長州藩が徳川幕府を倒して「島津幕府」や「毛利

幕府」をつくろうとしていたのに対し、龍馬は徳川でも島津でも毛利でもない、衆議制の全く新しい国家体制を想定していたことだそうです。

龍馬は長崎から京へ上る夕顔丸という船上で、有名な「船中八策」という新しい国の基本構想をまとめたといわれています。その中には

- ① 天皇に政権を返し議会を作り、議会で法令制度を定めること
- ② 憲法を定めること

- ③ 不平等条約をやめて、新たに条約を結びなおすこと
- ④ 海軍を創設すること

などが挙げられているほか、上述の金銀貨幣の交換レートをきちんと定めることも挙げられています。

今、戦後半世紀にして新たな政権が生まれましたが、それから九ヶ月、どうも日本をどのように新たな国に変えてゆかかというのではなく、選挙対策だけを念頭にのいた政策しか出てきていない

ように思います。そのことが国民の期待を裏切り、支持率低下を招いていることに新政権は気付いていないようです。世界の中で相対的に国力が低下しているという悲観論が横溢している中、もう一度元気な日本を取り戻すために何が必要か、ばらまきではなく、国民に何を新たな政策として提示し、一方、何を我慢していただかなければならないのか、政策の作り直しが必要な時のようです。

ふじい もとゆき  
藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 1回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>

- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条

私の政策の柱は A(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

- 活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

- 経歴

昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業  
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業  
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業  
昭和44年 厚生省入省  
平成9年 厚生省退官  
平成9年 財団法人 ヒューマンサイエンス 振興財団 専務理事

平成12年 日本薬剤師連盟 副会長  
社団法人 日本薬剤師会 常務理事

平成13年 参議院議員

平成16年 厚生労働大臣政務官  
(平成16年9月~平成17年11月)

平成19年 日本薬剤師連盟 顧問

- その他

慶應義塾大学薬学部 客員教授  
昭和大学薬学部 客員教授  
東邦大学薬学部 客員教授  
新潟薬科大学 客員教授  
京都薬科大学 客員教授  
近畿大学薬学部 客員教授  
千葉大学薬学部 非常勤講師